

生産者に直撃インタビュー！

〈心に花咲か岸浪俊一さんの巻〉



角田市豊室の岸浪さん宅を訪れると、立ち並ぶハウスに圧倒された。花栽培用のビニールハウスは全部で40棟！栽培面積は約3000坪、宮城県一の栽培規模を誇る。

「花を作って40年以上になるべな」という岸浪さんのルーツは中学生時代。祖母のまねをして種をまき、挿し木をした。「木の枝を土にさしとくと、なんで根っこ出んだべな。不思議だな〜」岸浪少年の心にまかれた小さな種は、すぐに芽を出した。なんと高校時代には、自ら花を栽培し、市場で花を販売したのだ。

その後も、農業クラブを通して、仙台の花時計や植え込みに花を提供してきた。「花を仕事にしよう！」とひらめいたのが、ちょうど40年以上前となる大阪万博の頃だった。ひたすら花と向き合う日々が、綿々と今日まで続いている。

「岸浪さんの花は、日持ちが全然違うんだよね」「花と葉が鮮やかで、元気がいいのよ」

岸浪さんの花を買ったお客様からは、そんなうれしい感想が寄せられている。岸浪さんにその極意をたずねると、「花をよく見ることだね。そうすれば、花が何がほしがっているかがわかるんだよ」という答えが返ってきた。そして、「ぜひ、家でも可愛がってほしい」と続けた。

岸浪さんは、あぐりっとの今後にも期待を寄せる。「先に展望の見えない時代だからこそ、生産者と消費者と一緒に手を取り合って、不安を夢に変えていきたい。そのためにも、農家も一生懸命頑張るから、ぜひあぐりっとを応援して

ほしい！」

熱い思いを語る岸浪さんの口から、ふと、「ネアンデルタール人で知ってか？」という言葉がぽろりと出た。20万年もはるか昔に生きたネアンデルタール人は、「初めて花を手向けた人類」として、人としての細やかな感情と美意識の発生の象徴とされている。

「おれは、花は人の心を支えるものだと思うんだよ・・・」

その言葉に、目の前の岸浪さんが、確かに「現代花咲か爺」に見えた。

取材：どじょう